

CLIを使用したSx500およびSG500XシリーズスタックブルスイッチでのスタティックMACアドレスの設定

概要

Medium Access Control(MAC)アドレスは、ネットワークデバイスに割り当てられた一意のデータリンク層アドレスです。データリンク層デバイスであるスイッチは、フレームを宛先ポートに転送するためのMACアドレステーブルを維持します。スイッチのMACアドレステーブルのエントリは、スタティックまたはダイナミックに作成されます。

このシナリオでは、コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用して、スイッチのVLAN 1に属するポートの1つにスタティックMACアドレスが設定されています。

目的

このドキュメントの目的は、CLIを使用してSx500およびSG500XシリーズスタックブルスイッチのスタティックMACアドレスを設定する方法を示すことです。

該当するデバイス

- Sx500シリーズ
- SG500Xシリーズ

[Software Version]

- 1.4.8.06

スタティックMACアドレスの設定

注：イメージは、使用しているデバイスの正確なモデルによって若干異なる場合があります。次の図は、SG500X-48MPスイッチから取得したものです。

ステップ1：スイッチのCLIにログインし、デバイスのユーザ名とパスワードを入力します。

```
User Name:cisco
Password:*****

SG500X#
```

注：デフォルトのユーザ名とパスワードはcisco/ciscoです。この例では、デフォルトのユーザ名はciscoで、パーソナルパスワードが使用されます。

ステップ2:CLIで、次のように入力して、グローバルコンフィギュレーションコマンドモードに入

ります。

```
SG500X#configure terminal
```

```
[User Name:cisco  
[Password:*****
```

```
SG500X#configure terminal
```

ステップ3：グローバルコンフィギュレーションモードでコマンドを入力し、次のように入力して、MACアドレステーブルに追加するスタティックMACアドレスを指定します。

```
SG500X(config) #mac address-table static c8:0a:a9:73:b0:a1 vlan 1 interface ge 1/1
```

```
[User Name:cisco  
[Password:*****
```

```
SG500X#configure terminal
```

```
SG500X(config)#$table static c8:0a:a9:73:b0:a1 vlan 1 interface ge 1/1
```

```
SG500X(config)#
```

注：この例では、VLAN 1のポートGE 1/1のMACアドレスc8:0a:a9:73:b0:a1が入力されています。上の図は、CLIの文字長の制限により\$で示されるコマンドの短縮版のみを示しています。

ステップ4:次のように入力して、グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。

```
SG500X (config) #exit
```

```
[User Name:cisco  
[Password:*****
```

```
SG500X#configure terminal
```

```
SG500X(config)#$table static c8:0a:a9:73:b0:a1 vlan 1 interface ge 1/1
```

```
SG500X(config)#exit
```

```
SG500X#
```

ステップ5：次のように入力して、MACアドレステーブルを確認し、入力したスタティックMACアドレスを確認します。

```
SG500X#show mac address-table
```

```
[User Name:cisco  
[Password:*****
```

```
SG500X#configure terminal
```

```
SG500X(config)#$table static c8:0a:a9:73:b0:a1 vlan 1 interface ge 1/1
```

```
SG500X(config)#exit
```

```
SG500X#show mac address-table
```

MACアドレステーブルに、指定したvlanとポートに設定されたスタティックMACアドレスが表示

されます。

| Vlan | Mac Address | Port | Type |
|------|-------------------|----------|---------|
| 1 | 00:eb:d5:5e:09:40 | gi1/1/46 | dynamic |
| 1 | 10:60:4b:70:97:07 | gi1/1/4 | dynamic |
| 1 | 28:f0:76:2a:21:92 | gi1/1/8 | dynamic |
| 1 | 40:a6:e8:e6:f4:d3 | gi1/1/5 | dynamic |
| 1 | 40:a6:e8:e6:f4:d4 | gi1/1/9 | dynamic |
| 1 | 40:a6:e8:e6:f4:d5 | gi1/1/5 | dynamic |
| 1 | 40:a6:e8:e6:f4:d7 | gi1/1/9 | dynamic |
| 1 | 40:a6:e8:e6:f4:ed | gi1/1/9 | dynamic |
| 1 | 80:e8:6f:0a:51:9e | gi1/1/3 | dynamic |
| 1 | 80:e8:6f:0a:5d:ee | gi1/1/8 | dynamic |
| 1 | 80:e8:6f:0c:a7:50 | gi1/1/1 | dynamic |
| 1 | c0:7b:bc:12:cc:de | 0 | self |
| 1 | c8:0a:a9:73:b0:a1 | gi1/1/1 | static |
| 1 | ec:bd:1d:44:74:53 | gi1/1/9 | dynamic |

ステップ6: (オプション) 設定を永続的に保存するには、次のように入力します。

```
SG500X# copy running-config startup-config
```

```
SG500X#copy running-config startup-config
```

ステップ7: ファイルの上書きプロンプトでYと入力し、「はい」を示し、設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。

```
[startup-config].... (Y/N) [N] ?Y
```

```
[SG500X#copy running-config startup-config  
Overwrite file [startup-config].... (Y/N) [N] ?Y
```

ページで、実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへのコピーが成功したことを確認します。

```
[SG500X#copy running-config startup-config  
Overwrite file [startup-config].... (Y/N) [N] ?Y  
10-Jul-2017 20:59:01 %COPY-I-FILECPY: Files Copy - source URL running-config destination URL  
10-Jul-2017 20:59:09 %COPY-N-TRAP: The copy operation was completed successfully  
Copy succeeded  
SG500X#
```

これで、CLIを使用してSx500およびSG500XスイッチのスタティックMACアドレスを正しく設定できました。